

28PA-am370

初期救命救急講習を通しての早期体験学習参加学生の評価およびその解析
○八軒 浩子¹, 小野田 良¹, 山下 由依亜¹, 中村 武夫¹, 伊藤 栄次¹, 松野 純男¹,
大内 秀一¹, 和田 哲幸¹ (¹近畿大薬)

【目的】早期体験学習において、生命を大切にする薬剤師にふさわしい態度や技能を養うよう初期救命救急講習を実施している。この救命救急講習で学生が何を学んだか、どのような気づきを得たのか、どのような考え方を身につけたのかを解析するため、テキストマイニングの手法を用いて分析を行った。

【方法】救命救急講習終了後に提出されたレポートをテキストデータとして用いた。テキストマイニングソフトとしてKH coder(ver. 2)を使用し、単語の出現頻度を数値化し、解析した。

【結果・考察】2016年度および2017年度入学の早期体験学習履修学生のレポートについてテキストマイニングで解析したところ、上位頻出語は「応急手当」「救急車」「疾病」「医療」「胸骨圧迫」などであった。共起ネットワーク分析では「応急手当」「自分」「人」「行う」「必要」、「AED」「胸骨圧迫」、「安全」「確認」、「プレアンビュランス」「ケア」、「バイスタンダー(側にいる人)」「早期」「実施」「生存」「向上」、「善意」「法的」「責任」、「承諾」「得る」「暴行」などのグループが形成された。これらのことから、初期救命救急講習において1年生は救急車が到着するまでの時間にバイスタンダーによるプレアンビュランスケアの大切さを認識し、さらに自ら迅速な初期対応を実施するという積極的な行動意識を習得できたと判断できる。また、初期救命救急手技を実施する際の安全確認の大切さ、加えて意識のある傷病者が承諾しない場合に無理強いする行為は暴行となることを理解したこともわかった。ダミー人形やAED訓練器を使用した体験型学習である初期救命救急講習は、より命の大切さを感じ、迅速に救助行動するという危機対応意識の向上につながる事が明らかとなった。